

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1.理念に基づく運営				
1.理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念「いきいき・のびのび・自分らしく」 利用者の方が、その人らしく地域の中で暮らし続けていけるようなサービスを心がけている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関と職員の名札に理念を掲げ、常に意識できるようにしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関に理念を掲げ、訪問者が必ず目につく様にしている。運営推進会議や家族会の席で取り組みを報告している。		
2.地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩中に近所の方々と挨拶を交わしたり立ち寄られた方と気軽に会話したり グループホーム内を案内している。最近では近隣の方より野菜を頂けるようになった。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域での催があれば、利用者と参加させて頂いている。今年度は西小田地区の招待で、夏祭りに参加させて頂いた。		

グループホーム おもやい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の委員に、区長、地区の民生委員の方に入って頂き、情報交換を行っている。10月19日に地域住民対象の認知症セミナーを開催した。		認知症セミナーや介護教室などを今後も開催して、少しでも地域に貢献していきたい。
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行うことで、今までのケアを見直す良い機会となった。改善点が明確になり、具体的な改善に取り組めた。外部評価を受けることにより自分達の気付けなかった改善点の指摘を受け改善に努め、より質の高いグループホームを目指したい。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、ホームの取り組みや意見交換を行っている。会議で頂いた意見やアドバイスは、日々のサービス向上に生かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	不明な点などがあれば、直ぐに市の担当者の方に相談するようにしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者と数人の職員は研修にて学んでいるが、他の職員はまだ学んでおらず理解していない。		現在は、制度を利用されるような方はいないが今後、必要に応じて対応出来るように資料などを使い職員全員で学習を行っていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修において学び他の職員には内部研修を実施し、虐待防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は重要事項説明書・契約書を使い、内容を十分に説明し理解・納得をしてもらってから契約を交わしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃より意見・不満・苦情がないか会話で聞き出すようにしている。また、玄関に意見箱(よろず相談箱)を設けている。もし意見や苦情があった場合は速やかに改善する様に心がけている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>年に数回、家族会を開催し、活動報告・生活状況の報告を行っている。家族来訪時は必ず、必要な報告を行うようにしている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談窓口を設置し、行政窓口もお知らせしている。また、玄関に意見箱を設けている。苦情・意見などが出た場合は運営に反映されるように心がけている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃より意見や提案があれば時間を作り聞くようにしている。また、毎月1回会議を開き意見交換を行っている。必要な物は、反映されるようにしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>毎月1回、会議において話し合いで調整している。急遽対応が必要な場合はその都度話し合い、調整する様にしている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員1人1人が入居者の方と信頼関係を構築し、もし職員が移動・離職した場合でもダメージを防げるようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	性別・年齢に問わず採用している。入職後は個性を大切にしながら研修や職員会議等で人材育成を図り、その能力が發揮できるように配慮している。	
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	外部研修を積極的に受講させている。また、内部研修も定期的に行っている。	
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	出来る限り、施設内外の研修には参加させ、職員の質の向上に努めている。	
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	他のグループホームで行われる行事等に利用者の方と一緒に参加させてもらっている。また、研修会などで、他のグループホームの方と積極的に交流を持ち、研修後は交流を深め、アドバイスなどを頂きサービスの質の向上に努めている。	
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	休日の希望や夜勤の希望などは、出来る限り聞く様になっている。	
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	1人1人の能力に合った役割を持ってもらっている。また、研修などへの参加、資格取得の奨励を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に本人と直接話をするようにし、不安などは聞く様にしていく。また、必要であればホームでの生活を体験して頂き、思いなどをしっかり聞く様にしていく。</p>	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の方とは十分に時間をとり、不安などを聞く様にしていく、解消できるようにしている。</p>	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた時は、相手の対場になって応じ、必要なサービスを見極め、対応している。</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になんげに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>一日体験、短時間ホーム利用などを行い、本人がホームになんげめるように努力している。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかずに、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者と職員という関係ではなく、共に同じことを行い、一緒に生活するパートナーとして、喜怒哀楽を共に感じている。時に教え、時に学ぶという良い関係を築いている。</p>	

グループホーム おもやい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に情報を交換し、本人への支援の方法を共に考える様に心がけている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人や家族の個々の生活を大切にしつつ現在の状態でのより良い関係作りに配慮している。特に認知症の現実を受け止められないご家族の苦悩に対し、理解や納得を得られるような助言等を行っている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	以前住んであった所の友人の方や、親戚の方が面会に来られている。利用者の方が家族などへすぐに連絡を取れるように支援している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わら合い、支え合えるように努めている	本人の時間、気持ちなども考慮し声かけを行っている。また、トラブルになった際も、間に入り全員が気持ちよく過ごせるように支援している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在までに、サービスが終了した利用者はまだいない。		行事等の招待や本人・家族の相談に対応していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日頃の会話の中から本人の希望、意向を把握する様に努めている。困難な場合は、その方の生活歴や家族からのアドバイスを聞き、本人本位の生活ができる様に検討し支援している。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時までの生活歴は、本人・家族から情報を得、記録に残し、職員全員で把握できるようにしている。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>バイタルチェック表・介護記録により心身状態一日の過ごし方、出来ること、出来ないことを総合的に把握し、個々に合ったサービスを行っている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族・医師の意見を反映させ、ケアマネージャーを筆頭に、全職員で意見の交換を行いながら計画を作成している。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3カ月に1度見直しを行っている。また、利用者の状態に変化が生じた場合はその都度見直しを行うようにしている。</p>	

グループホーム おもやい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践 結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・ケアプラン実施表に日々の様子や気づきを記録し、情報を共有し実践や介護計画の見直しを行っている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の希望に出来るだけ対応している。		外食の希望あるも、まだ行えていない為、今後取り入れていく。
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年1回消防署立ち合いで消防訓練を行っている。		地域の小学校や幼稚園との交流を持てるようにしていきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設の介護老人保健施設でリハビリをさせてもらったり行事やレクリエーションなどを合同で行っている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月に1度行われる運営推進会議の委員に、地域包括支援センターの担当の方に入って頂き情報を交換している。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診はすべて職員が付き添って行っている。(家族の付き添いが必要な場合はお願いしている)また、かかりつけ医以外への受診が必要な場合でも、出来る限り付き添いは職員が行っている。		

グループホーム おもやい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり利用者や認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医への相談、アドバイスを頂いたりよい関係を築いている。専門医ではないが利用者や認知症を一番理解して、診断や治療をして頂いている。		
47 看護職との協働 利用者やよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	母体である病院より週一回決まった看護師が来て、健康チェックを行ってもらっている。利用者・職員ともに気軽に相談出来、よいアドバイスをもらっている。		
48 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際は、主治医と定期的に連絡を取り、また、頻回に面会に行くことで、本人に安心感を持ってもらえる様にした。		
49 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に向けての対応の指針は作成しているが、本人、家族、主治医、職員での話し合いがおこなえていない。		本人や家族、職員、主治医との話し合いをもち、早いうちの方針を決めていきたい。
50 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をよ！暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在までに終末期を迎えられた方はいない。家族、主治医と連携を取りながら、最後までその人らしく暮らせるよう支援していきたい。		
51 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住する際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居者個人の情報を的確につかみ、情報交換を行うことで、ダメージを防ぐことに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>親しき仲にも礼儀あり というように、接遇に関して力を入れている。個人情報の取り扱いに関しても十分注意している。</p>	
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めた納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日々訴えの傾聴を行っている。入居者が納得して頂けるように説明や支援を行っている。</p>	
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人の希望は、日頃の会話(コミュニケーション)で聞き出すようにし、出来る限り一人一人のペースを大切に支援している。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理美容は本人が希望されるお店に行かれている。外出時はおしゃれが出来る様に支援している。</p>	
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>男性・女性どちらとも、準備や片付けを職員と一緒にしている。</p>	
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嗜好の抑制はしておらず、食べたいもの、飲みたいものを出来るだけ取ってもらっている。(体調面に問題がある場合のみ、医師・家族に相談している)</p>	

グループホーム おもやい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人一人の排泄パターンを把握し、出来る限りトイレでの排泄を促している。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜勤帯、職員が一人になる為、介助が必要な方は、入浴時間を18時30分までとさせて頂いている。毎日入浴は出来る様にしている。入浴拒否がある場合は、時間・日にちを変え、声掛けを行い気持ち良く入浴して頂いている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の就寝時間は決まっておらず、個人個人で好きな時間に就寝される。夜間不眠傾向にある方は、日中、体操やリハビリに参加して頂くなどしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	週一回の習字教室・ドライブ・イベント等を行うことで、楽しみ支援を行っている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能方は、お金を自分で持ってもらっている。困難な方は、ホームが管理している。入居者の希望に応じて買い物へ出かけている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があれば個別で外出できるようにしている。週一回、散歩やドライブに出かけている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	花見や初詣に出かけ楽しんでいる。12月劇場に芝居を見に行く予定になっている。		

グループホーム おもやい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から訴えは少ないが、希望ある際は電話を使用して頂いている。手紙やハガキを出したいと希望があれば、その方の能力に応じてサポートする様にしている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪の時間は制限なく来られている。夜間は連絡を頂けるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修(ビデオ学習)にて身体拘束についての学習を行い、職員全員理解している。今まで身体拘束を行ったことはない。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、外へ出たい時はいつでも外に出られるように、玄関は施錠していない。夜間20時～朝6時だけ施錠を行っている。(防犯の為)		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜、常に所在・状態を把握する様に心がけ、安全に配慮している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々に応じた対応をしている。共同生活の場には危険物は置かない様にしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者一人一人の状態を常に把握し見守りを行っている。火災避難訓練を年に2回定期的に行い、知識を学んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的ではないが、内部研修にて応急手当の学習を行っている。また、急変時の対応マニュアルを作り 対応する様にしている。		定期的な訓練を行い、日頃から急変等起こっても速やかに対応できるようにしたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年 2回行っている。災害時のマニュアルを作っている。また、緊急連絡網を作り 直ぐに連絡を取れる様にしている。併設の病院 老健より応援が駆けつける様になっている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し 抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	必ず契約時に家族に話して了解を頂いている。また、面会時等にも状況を報告し、話をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し 対応に結び付けている	毎日のバイタルサインのチェックを行い、また、日々のコミュニケーション等で状態観察を行うことで異常の早期発見に努めている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており 服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容が職員全員で理解できるように説明書をいつでも見れるようにしている。また、症状の変化などあった場合はすぐに主治医に連絡をしている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し 予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事やオヤツに極力食物繊維の多いものを取り入れる様にしている。また、水分は必要量摂取して頂けるように心掛けている。リハビリ・レクリエーション 作業などを行い身体をできるだけ動かして頂けるように工夫している。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう 毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの声掛けと 必要に応じた介護を行っている。夜間義歯を預かり 消毒している。		

グループホーム おもやい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量のチェックを行い本人の体調や摂取状態を把握している。水分量のチェックも行い、必要な摂取量が取れるように支援している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防や対策は資料を使い学んでいる。利用者・職員の手洗い、うがいの実施、インフルエンザ予防接種もはやめに利用者・職員ともに受ける様にしている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾は毎日漂白除菌を行っている。なべなどは使用后、加熱除菌を行い、古くなった食材はすぐに処分する様にしている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先は毎日掃除を行い、整理整頓を心がけている。ベンチを置き、どなたでも座ってくつろげるようにしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	造花であったりその季節の花を飾り季節感を感じて頂けるように工夫している。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は3ヶ所あり利用者はそれぞれ思い思いの場所で作業をされたり他者との会話を楽しんでいる。		

グループホーム おもやい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのものを持参されたり、家族の写真を飾るなど、本人が過ごしやすいよう心がけている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	1日一回換気を行うようにしている。また、温度調節はこまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室(必要な方には居室)に手すりを設置している。また、建物内には段差をなくし、移動を行いやすいようにしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「何を理解でき、出来ないのか」を把握することに努め、検討しながら自立に必要な支援を行っている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるよう活かしている	庭に菜園を作り、花を植えたり、野菜作りなどを行っている。季候や天気の良い日には、庭でお茶を飲んだりしている。		

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム おもやい

項 目		最も近い選択肢の左欄に つけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くない
100	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の 2/3 くらいが
			職員の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/3 くらいが
			利用者の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の 2/3 くらいが
			家族等の 1/3 くらいが
			ほとんどできていない

【時に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「理念」 いきいき・のびのび・自分らしく 暮らしに自信と喜びを持って、生き生きと！ 好きな時に、好きな事をしてのびのびと！ 一人一人の生活ペースに合わせて、自分らしく！ お互いに協力し合って助け合う「おもやい精神」で！ 私たちは、この基本理念を実践することにより、利用者の方1人1人に安心で、楽しく生活できる場を提供致します。